

堪えない思いである。

- (1) 三木栄 朝鮮医学史及び疾病史
- (2) 申汀植 韓国の癩 一九八二年四月
- (3) 西川義方 朝鮮小島島更生園を通して観たる朝鮮の救癩事業

- (4) 佐久間温巳 初期の植民地医療における現役軍医の役割日
本医学誌 三十卷二号 六四—六六 昭和五九年四月
尚、御教示いただいた邑久光明園園長原田禹雄先生、長島愛
生園園長友田政和先生に感謝の意を捧げます。

(西尾市民病院)

太平洋戦争末期の陸軍衛生事情

(第一報 栄養及び体力の状況について)

※¹⁾ 清水勝嘉・※²⁾ 三宅雅史

太平洋戦争全般の軍の衛生事情は関係資料の焼却散逸等のため、精密な統計をみることは困難である。とくに昭和十九年以降のものにその傾向が著しい。

ここでは終戦直後、陸軍省医務局が連合国軍総司令部宛に行った「陸軍衛生関係事項報告」をとりあげ、本土決戦準備における衛生事項を報告する。

陸軍衛生関係事項報告は

一、昭和20・9・5 陸軍省医務局
衛生機関所在並ニ病床数表

二、昭和20・9・5 大本営陸軍部

陸軍病院船現況調

三、昭和20・9・5 陸軍省医務局

日本武装軍ノ健康ニ関スル報告

四、昭和20・10・1 陸軍省医務局

大東亜戦争以来ノ戦死傷統計

の四つの項目より成り立っている。

「衛生機関所在並ニ病床数表」は陸軍病院・分院・赤十字病院および軍事保護院療養所の病床数と所在地を一覧表にしたものである。

陸軍病院船現況調および「大東亜戦争以来ノ戦死傷統計」の二つは当該事項を一覧にしてある。

「日本武装軍ノ健康ニ関スル報告」の構成は次のとおりである。

- 一、日本軍隊ノ栄養及体力ノ状況
- 二、一般患者発生ノ状況
- 三、伝染病発生ノ状況
- 四、入院患者ノ状況

この報告書の結論は「陸軍將兵ノ体力ハ一般ニ尚良好ニシテ給養狀況ニ憂フヘキ事項アリタル他大ナル支障ヲ認めサリキ、出戦可能兵力量ハ概ネ全兵員ノ九五%ヲ保持シアリタリ」とされていたが、「日本軍隊ノ栄養及体力ノ状況」のなかで数字を用い、本土の陸軍將兵の栄養摂取状況を詳

細にまとめている。

これを以下、示す。

兵ニ対スル給養ハ米表七八五瓦(二六〇〇カロリー)ヲ主食定量トシ爾他ノ食品ヨリ八〇〇カロリー」合計三四〇〇カロリー」ヲ標準トシテ与ヘアリタルモ戦局ノ激化ト共ニ国内食糧事情ノ逼迫セル為一九四四年九月以降米表七〇五瓦(二三〇〇カロリー)爾他食品六〇〇カロリー」合計二九〇〇カロリー」ニ減スルノ止ムナキニ至リ内獣肉ノ如キハ平均一日五―一五瓦ニ過キササル状況ナリ然シテ各部隊ノ實際給養熱量ハ概ネ二八〇〇カロリー」ヲ平均値トシ地域別二五〇〇カロリー」程度ノ差異ヲ示シアリ、然ルニ兵ノ実施スル労作量ハ本土決戦ニ備フル猛訓練ト築城作業トニ依リ著シク増大シ其ノ所要熱量ハ食品ヨリノ吸収熱量ヲ遙ニ凌駕シ三二〇〇カロリー」以上ヲ示スニ至レリ

之カ対策トシテ軍ハ自隊ニ依リ農耕ヲ実施シ主食ノ減量ヲ甘藷等ヲ以テ補フ等各種ノ手段ヲ講セル外食品ノ栄養効率増進策、訓練ノ能率化等ヲ図リ以テ栄養不及ノ防止ニ万全ノ努力ヲ払ヒタリ然レトモ従来兵ノ入隊後ノ体重増加顯著(入隊後四ヶ月間ニ平均二匁増加)ナルヲ例トセシニ拘

ラス最近ニ於テハ入隊後ノ体重ハ顯著ナル増加ヲ示ササル
ノミナラス一部ニ於テハ著シキ体重ノ減少ヲ來シ削瘦甚シ
ク遂ニ浮腫、下痢等ノ栄養障害患者ノ發生ヲ見ルニ至リ其
ノ総數一〇、〇〇〇ニ達シ其ノ一%ハ死亡スルノ狀況ヲ示
スニ至レリ

以上ノ事實ハ地域別、部隊別、兵種別ニ稍差異ヲ生シア
リテ九州、北海道ヲ除ク殆ト全地域ニ發生シ師管区部隊
(補充部隊) ヨリ野戦部隊ニ多ク古年次兵ヨリモ初年次兵
ニ多發セリ

尚兵員体重ハ戦前平均概ネ六〇瓩ヲ算ヘタルモ最近ニ於
ケル平均体重ハ概ネ五四瓩程度ニシテ兵員全般ノ健康状態
ハ良好トハ稱シ難キ狀況ニアリ

而シテ徴兵検査時ニ於ケル壯丁ノ体重モ一般ニ低下シア
リ 四五瓩未滿ノ壯丁モ相當數ニ含マレアリ

平均五二乃至五三瓩ナリ

ここにあげられてゐるように、当時の国内食糧事情は悪
化し、その後は一層切迫してきていた。これを給養の自給
自足態勢でのりきろうとしていたが、国内の絶対的食糧不
足のまえには兵士すら栄養障害者を生ずる現状であつた。

※1) (防衛医科大学校公衆衛生学)
※2) (海上自衛隊)